

# 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Maternal psychological distress, education, household income, and congenital heart defects: a prospective cohort study from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊婦の心理的苦痛、教育歴、世帯収入と生まれた子どもの先天性心疾患との関連

ユニットセンター(UC)等名: 北海道ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Pregnancy and Childbirth

年: 2021 DOI: 10.1186/s12884-021-04001-2

筆頭著者名: 西條 泰明

所属 UC 名: 北海道ユニットセンター

目的:

本研究は、妊婦の心理的苦痛、教育歴、そして世帯収入の組み合わせと、生まれた子どもの先天性心疾患との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)で得られた93,643組の親子のデータを用いた。妊婦の心理的苦痛の程度を評価し、苦痛の程度と妊婦の教育歴、そして世帯収入の組み合わせと、生まれた子どもの先天性心疾患との関連を、多変量ロジスティック回帰分析という統計解析方法によって検討した。

結果:

妊婦の心理的苦痛、教育歴、世帯収入と、生まれた子どもの先天性心疾患との関連は認められなかった。妊娠中の心理的苦痛があることと教育歴が短いことについて、どちらも無しを0、どちらかありを1、両方ありを2とした場合、数が増えると、生まれた子どもが先天性心疾患に罹患していることとの関連が示された。しかし、抗うつ薬の内服を調整した解析を行うと、生まれた子どもの先天性心疾患の罹患との関連は認められなかった。

考察(研究の限界を含める):

妊婦の心理的苦痛や教育歴が短いことの組み合わせが、生まれた子どもの先天性心疾患と関連することが示唆された。この関連は、抗うつ薬の内服を調整すると統計学的有意差が消失したため、統計解析上は抗うつ薬の内服が妊婦の心理的苦痛から先天性心疾患の間に存在する中間因子として働いている可能性が示唆される。そのため、妊婦の心理的苦痛や教育歴が短いことの組み合わせと、生まれた子どもの先天性心疾患との関連において、弱いながら抗うつ薬の内服による影響も含んでいる可能性も考えられた。

結論:

妊婦に心理的苦痛がありかつ教育歴が短いことは、生まれた子どもの先天性心疾患に関連する可能性が示唆された。ただし、本研究ではメカニズムは明らかにできないため、さらなる研究が必要と考えられる。